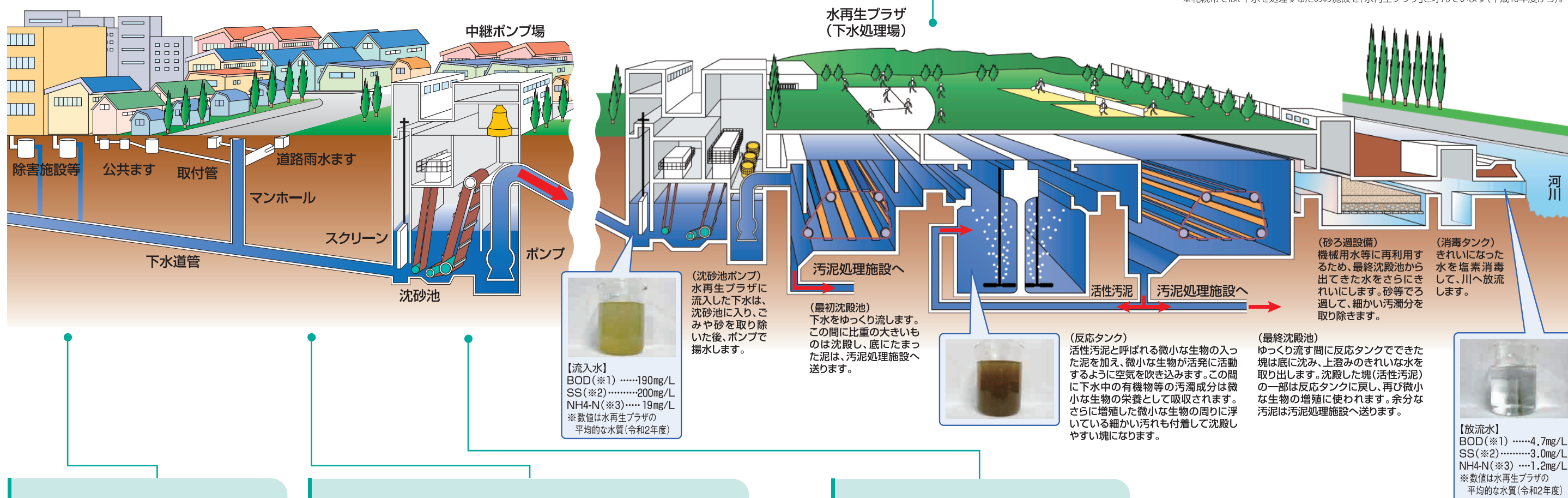


下水道のしくみ①(下水処理)

下水道は、家庭から出るお風呂やトイレの汚水、工場・事業場からの排水等を受け入れ、安全に処理して河川などの公共用水域へ放流し、また、都市内に降る雨水をすみやかに排除するものであり、生活環境の改善、浸水の防除、公共用水域の水質保全など、市民生活にとって欠かすことのできない都市施設のひとつです。

下水処理の流れ

家庭や工場等から出る汚水や雨水は、敷地内の排水設備から公共ますを経由して下水道管に流れます。また、道路上の雨水も道路雨水ますから下水道管に流れます。下水道管に流入した下水（汚水と雨水を合わせて下水といいます。）は、管のこう配によって自然に流下しますが、下水道管が地下深くなるとポンプ場で下水をいったんくみ上げて水再生プラザへ流します。水再生プラザでは、下水に含まれるごみや土砂を取り除いた後、微小な生物の働きで浄化処理し、河川に放流します。



- ※1 BOD(生物化学的酸素要求量):下水に含まれる分解可能な有機物が、一定条件下で微小な生物の働きによって分解し、安定化するとき消費される酸素量をいい、この数値が大きければ汚れの度合いが高いことになります。
- ※2 SS(浮遊物質):水中に浮遊している物質の総称をいい、この数値が大きければ浮遊量が多いことになります。
- ※3 NH4-N(アンモニア性窒素):水中のアンモニアやアンモニウム塩をその窒素量で表したもので、主に、し尿、工場排水などに由来し、下水処理効果を判定する重要な指標のひとつです。